

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成19年10月18日(2007.10.18)

【公開番号】特開2006-176597(P2006-176597A)

【公開日】平成18年7月6日(2006.7.6)

【年通号数】公開・登録公報2006-026

【出願番号】特願2004-369878(P2004-369878)

【国際特許分類】

C 0 8 L 77/06 (2006.01)

C 0 8 K 5/29 (2006.01)

【F I】

C 0 8 L 77/06

C 0 8 K 5/29

【手続補正書】

【提出日】平成19年9月3日(2007.9.3)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0032

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0032】

また、脂肪族または脂環式カルボジイミド(B)のうち、ポリカルボジイミドの具体例としては、種々の方法で製造したものを使用することができるが、基本的には従来のポリカルボジイミドの製造方法(米国特許第2941956号明細書や特公昭47-33279号公報、J.Org.Chem.28、2069-2075(1963)、Chemical Reviews 1981, Vol. 81 No. 4 p619-621)により製造したものを用いることができる。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0047

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0047】

<耐LLC性試験>

上述のように作製した試験片を、120に加温した50%エチレングリコール水溶液に所定時間(500、1000、1500、2000時間)浸漬し、その後オートグラフ(株式会社島津製作所製)を使用して引張降伏強さを測定し、浸漬前の試験片の引張降伏強さに対する保持率(引張り強度保持率)を求めて、耐LLC性の指標とした。引張り強度保持率(上限100%)が高いほど耐LLC性が良好であることを意味する。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0049

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0049】

<ポリアミド樹脂(A)>

PAT；テレタル酸単位と、1,9-ノナンジアミン単位および2-メチル-1,8-オクタンジアミン単位(1,9-ノナンジアミン単位：2-メチル-1,8-オク

タンジアミン単位のモル比が 60 : 40 ) とからなり、極限粘度 [ ] ( 濃硫酸中、 30 度測定 ) が 1.40 dL/g 、融点が 276 ℃ 、末端封止率が 90 % 以上 ( 末端封止剤 : 安息香酸 ) のポリアミド樹脂